

事業概況

石油開発事業

石油事業 (精製・販売)

概要

アラブ首長国連邦・アブダビ首長
国、カタール国において、原油の自
主開発・生産を行う事業です。

輸入した原油を製油所で精製し、全国のサービス
ステーションや工場等へ販売する事業です。

売上高
(2017年度実績)

563億円

2兆2,927億円

経常利益
(2017年度実績)

183億円

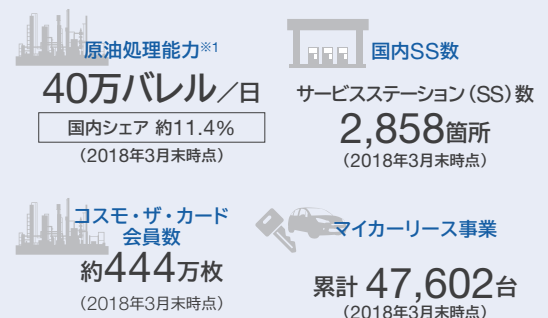
588億円／378億円
(在庫影響除き)

従業員数
(2018年3月末時点)

283名

4,545名

主な資産



主な
事業会社
関係会社
(2018年3月末時点)

コスモエネルギー開発
アブダビ石油(UAE)
カタール石油開発(カタール)
合同石油開発(UAE／カタール)

コスモ石油
コスモ石油ルブリカンツ
京葉精製共同事業(千葉JV)
ジクシス(LPG)

コスモ石油マーケティング
コスモ石油販売
総合エネルギー

在庫影響とは

「在庫影響」とは、原油価格が変動した際、棚卸資産の
評価方法によって、損益計算書の売上原価が影響を受
けることを指し、以下の2つに区分されます。

① 総平均法による在庫影響

棚卸資産の評価方法である「総平均法」によって受ける収益上の影響を指します。原
油価格上昇局面では、期中の上昇した仕入在庫単価が期中比安値の期初の在庫単価
と平均されるため、売上原価を押し下げ、反対に原油価格下落局面では、期中の下落
した仕入在庫単価が期中比高値の期初の在庫単価と平均されるため、売上原価を押し
上げることとなります。

② 簿価切り下げによる在庫影響

棚卸資産の期末時点の時価が簿価を下回っている場合、簿価を時価まで切り下げるこ
とが必要となり、これにより損失が発生することを指します。



ポリエステル繊維、ペットボトル、プラスチック、合成ゴム等の原料の製造を行う事業です。

石油関連以外の事業です。主に再生可能エネルギーとして、風力発電事業を展開しています。

4,585億円

500億円

2兆5,231億円^{※2}

304億円

94億円^{※2}

1,169億円／959億円^{※2}
(在庫影響除き)

1,136名

891名^{※3}

6,855名



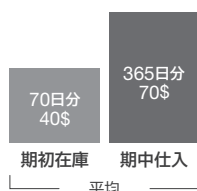
丸善石油化学(千葉／四日市)
コスモ松山石油
CMアロマ(千葉)
Hyundai Cosmo Petrochemical(韓国)

エコ・パワー(風力発電)
コスモエンジニアリング
コスモトレードアンドサービス
neo ALA

※1 事業提携に基づく昭和シェル石油グループからの3.7万バレル／日相当の製品、半製品の供給も含む。
※2 連結処理を含む
※3 風力発電事業(エコ・パワー)は96名
※4 京葉エチレン(丸善石油化学が55%を出資する連結子会社)の生産能力を含む

原油価格が上昇する局面

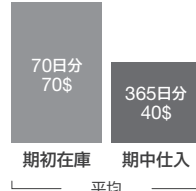
期中の受入単価と
期初の「割安な」在庫単価を平均



売上原価を「押し下げ」
(プラスの在庫影響)

原油価格が下落する局面

期中の受入単価と
期初の「割高な」在庫単価を平均



売上原価を「押し上げ」
(マイナスの在庫影響)